

平成 2 1 年度埴町管理橋梁点検結果

1 . 点検実施橋梁

平成 2 1 年度に実施した橋梁点検（全 2 6 橋）の、橋種別等の集計を図 - 1 に示す。

橋長は 1 4 . 5 ~ 5 0 m が 9 割弱、 5 0 m 以上が 1 割強となっている。

橋種は鋼橋が 3 割弱、 P C 橋が 4 割強、 R C 橋が 2 割弱、複合橋が 2 割弱となっている。

架設後経過年数は 0 ~ 9 年が 1 割強、 1 0 ~ 2 9 年が 3 割強、 3 0 ~ 4 9 年が 4 割弱、 5 0 年以上が 1 割弱、架設年月不明が 1 割弱となっている。

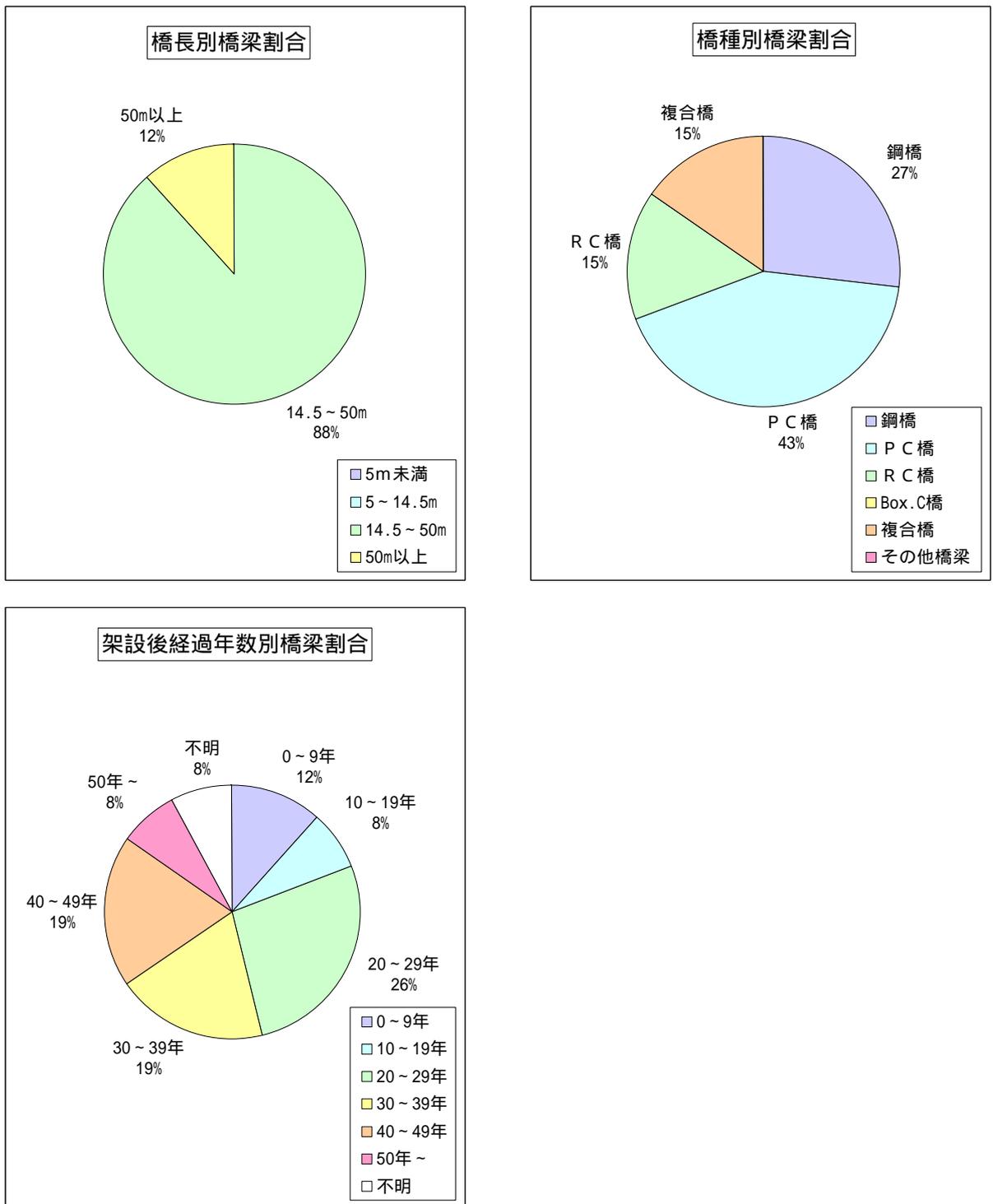


図 - 1 平成 2 1 年度橋梁点検の内訳

2. 損傷状況

平成21年度点検橋梁の損傷については以下の傾向が見られる。

橋梁主構造（上部工、下部工）の損傷が8割程度で見受けられる。

（全26橋、損傷橋梁21橋、割合81％）

路面の凹凸、舗装の異常及び高欄・防護柵の損傷が8割程度で見受けられる。

（全26橋、損傷橋梁21橋、割合81％）

（1）鋼橋

緊急保全または予防保全が必要な損傷のあった橋梁は6橋あり、鋼橋全体（7橋）のうち、86%にあたる。

表 - 1 鋼橋の損傷内容

橋種	部材	損傷	箇所数
鋼橋	桁	腐食	4
		亀裂	0
		ボルト脱落	0
		破断	0
	床版	ひびわれ	2
		鉄筋露出	0
		抜け落ち	0
	下部工	ひびわれ	2
		鉄筋露出	0
		変状	0
	支承	機能障害	0
	伸縮装置	損傷	3
	損傷数		11
	実橋梁数		6
点検数		7	
損傷率		86%	

鋼製床版については、桁部材に含む。

（2）PC橋

緊急保全または予防保全が必要な損傷のあった橋梁は7橋あり、PC橋全体（11橋）のうち、64%にあたる。

表 - 2 PC橋の損傷内容

橋種	部材	損傷	箇所数
PC橋	桁	ひびわれ	2
		鉄筋露出	0
		定着部異常	1
	床版	ひびわれ	3
		鉄筋露出	0
		抜け落ち	0
	下部工	ひびわれ	3
		鉄筋露出	0
		変状	0
	支承	機能障害	1
	伸縮装置	損傷	3
	損傷数		13
	実橋梁数		7
	点検数		11
損傷率		64%	

(3) R C 橋

緊急保全または予防保全が必要な損傷のあった橋梁は4橋あり、R C 橋全体 (4 橋) のうち、100%にあたる。

表 - 3 R C 橋の損傷内容

橋 種	部 材	損 傷	箇所数
R C 橋	桁	ひびわれ	2
		鉄筋露出	0
		定着部異常	
	床 版	ひびわれ	3
		鉄筋露出	0
		抜け落ち	0
	下部工	ひびわれ	3
		鉄筋露出	0
		変 状	0
	支 承	機能障害	1
	伸縮装置	損 傷	3
	損 傷 数		12
実橋梁数		4	
点 検 数		4	
損 傷 率		100%	

(4) ボックスカルバート橋

緊急保全または予防保全が必要な損傷のあったBox.C橋は0橋あり、Box.C橋全体 (0 橋) のうち、0%にあたる。

表 - 4 ボックスカルバート橋の損傷内容

橋 種	部 材	損 傷	箇所数
Box.C橋	桁	ひびわれ	
		鉄筋露出	
		定着部異常	
	床 版	ひびわれ	0
		鉄筋露出	0
		抜け落ち	0
	下部工	ひびわれ	0
		鉄筋露出	0
		変 状	0
	支 承	機能障害	
	伸縮装置	損 傷	
	損 傷 数		0
実橋梁数		0	
点 検 数		0	
損 傷 率		0%	

(5) その他橋梁

緊急保全または予防保全が必要な損傷のあった橋梁は4橋あり、その他橋梁全体(4橋)のうち、100%にあたる。

表 - 5 その他橋梁の損傷内容

橋種	部材	損傷	箇所数
その他	桁・床版	腐食	2
		亀裂	0
		ボルト脱落	0
		破断	0
		ひびわれ	1
		鉄筋露出	0
		抜け落ち	0
	下部工	ひびわれ	3
		鉄筋露出	1
		変状	0
	支承	機能障害	1
	伸縮装置	損傷	4
	損傷数		12
	実橋梁数		4
点検数		4	
損傷率		100%	

(6) 橋面

路面の凹凸、舗装の異常、高欄損傷のあった橋梁は21橋あり、橋梁全体(26橋)のうち、81%にあたる。

表 - 6 橋面の損傷内容

橋種	部材	損傷	箇所数
全橋	路面	凹凸	14
		舗装の異常	3
	高欄	損傷	14
	損傷数		31
	実橋梁数		21
	点検数		26
	損傷率		81%